2025年5月14日（水）第1回学校運営協議会　議事録
令和7年度　第1回学校運営協議会
参加者
＜学校運営協議会委員＞
原委員、徳川委員、松田委員、山下委員、宮丸委員、山﨑委員
＜校内委員＞
平山校長、原口教頭、田島教諭、徳永教諭、末松教諭、下田教諭、森山教諭、池本教諭

（1）学校長挨拶　（平山校長）
校長より、学校の人材育成について説明。
学校の核は、共同的な活動や自ら課題を立てて解決する探究であり、多様な進路の実現や、地域の未来を担う志ある人材の育成が学校の役割であると述べた。

（2）出席者紹介（自己紹介）

（3）本年度の学校運営協議会の体制について　（原口教頭）
　新年度の体制について説明があった。
　学校運営協議会は、学校のグランドデザインや評価計画、外部連携の強化などを議論する場として位置づけられている。
　今年度も多様な関係者が参画し、学校運営の充実を図る方針。

（4）グランドデザインについて　（平山校長）
　学校の目指すべき生徒像は「主体性」を核とし、多様な進路の実現と地域の未来を担う人材の育成を目指す。
　主体性を育てるため、探究学習や共同的な活動を重視。
　生徒の興味・関心を掘り下げる探究活動は、教職員だけでは限界があるため、外部の協力が不可欠。
　6つの力（基礎力・着眼力・解決力・発信力・計画力・改善力）を探究活動で育成する。
　探究活動を通して生徒のワクワクを形にすることを重視。

（5）令和7年度学校評価計画について　（原口教頭）
　スクールミッションや目指す生徒像に基づき、数値目標を設定して取り組む。
　10月に中間評価（校内職員）、12月に最終評価（保護者・生徒・教職員）、1月に学校関係者評価（PTA、学校運営協議会）を実施予定。
　評価はA（十分達成）、B（概ね達成）、C（やや不十分）、D（不十分）の4段階で行い、結果はホームページで公表。アンケートを活用し、率直な意見を求める方針。

（６）協議

説明①「総合的な探究の時間」・「学校設定科目」について　（田島）

総合的な探究の時間は、全学年でテーマを設定し、学習内容を決定。昨年度とほぼ同様の構成。

1 年生は「キッカケセッション」やミニ探究を実施し、コース選択につなげる。

小中学校や大学、地域と連携した活動、防災ボランティア等も積極的に取り入れる。

2 年生は中間発表、最終的にプレゼン大会を開催。外部講師による個別指導も実施。

3 年生は進路に直結する内容を計画中。

探究活動支援のため、外部連携やボランティア活動の情報を全校生徒に案内し、体験の機会を提供。

九州大学等とのコラボレーションも実施予定。

説明②探究サポーターと探究ルームについて　（田島）

今年度から「探究サポーター」制度を本格運用。現在 21 名が登録中。

5 月末まで登録受付、6 月に事前説明会・情報交換会を開催予定。

規約はトラブル防止のため禁止事項を強化し、参加拒否・登録解除の規定も追加。

専門分野をリスト化し、個人情報の取り扱いにも配慮。

議題①規約の承認について

Ａさん：規約を運営しながら改定する場合は、誰が決定するのか？

田島：この会議が決定機関となります。それを経て、皆さんにお知らせする形です。

Ｂさん：いったんスタートはこの場で決めて、その後は柔軟に対応する形で。

質問等がなければ承認いただける方は挙手をお願いします。→（挙手）→全員の承認が得られました。

議題②事前説明会について

Ｂさん：補足すると、直接お声掛けをする中で、探究サポートは時間をどれくらいとられるか、生徒とどう接するか、等、疑問の声もあったので、最初に説明会を実施しようという流れになりました。その後、もう少しお話をしたい方を対象に、情報交換会を考えています。

声掛けをしたら、みなさんいいよ、と言っていただいていて、ＳＮＳで呼びかければさらに増えそうだったのですが、まだこちら側の準備が整っていなかったので、止めていたところです。

３０団体くらい増えたら、高校生たちの様々な疑問に答えるようなサポートできる体制が整うのでは、と考えています。

Ａさん：どの分野の団体が必要かなどが分かれば声掛けがしやすいのでは？

Ｂさん：取扱注意ということで、一覧を配布するのは？

校長：委員さんへ配布するようにします。

田島：分野がわかるような形でお配りしたいと思います。

Ｂさん：質問がなければ承認の採決をします。→（挙手）→承認をいただいたので、このまま進めていただければ、と思います。

Ｂさん：次に、探究ルームについて説明をお願いします。

田島：多目的教室を１つ使って、探究ルームを作ることを職員会議で承認していただいたが、内容をどのようなものにするかを検討していまして、外部の方と気軽に会話ができるような教室が作れないかな、ということで考えているところです。予算をつけてもらって、机やいす、モニターをそろえていこうと思っているのですが、まだこれから、というところで何かアイディアをいただければ。生徒たちがミーティングするスペース、発表の練習、ズームミーティング、調査活動、外部の方との面談などができるスペースを作りたい。

Ｂさん：どういう使い方、どういう設備があるといいというのがあればお伺いしたい。

Ａさん：開放時間というのが出てくると思うのですが。開放時間の運用の仕方や、日中じゃないといけないとか。設備については、みなさん持参されて電気だけ貸してください、という形でできると思うので、探究を推進する部屋は必要だと思う。

Ｂさん：外部の方が来られる際の制限については？

田島：来ていただきたいが、リスクを考えると制限等の規定が必要になると思う。探究サポーターの許可証や何かしら。

Ｂさん：制限はあるけど来てほしい場合にどうするか。

校長：生徒と職員との交流が必要なので、職員のところを通ってもらうなど。開放時間とセキュリティは考えていかないといけないが、探究を進めることと、垣根を下げて、地域に貢献できる人材づくりを進めるうえで踏み出すべき一歩だと考えている。生徒だけでなく、先生達と地域の人との関係も大切。

Ｃさん：外部の人とどうつないでいくか。生徒のニーズを吸い取って、つなぐ役割をどこが担うのか？生徒とサポーターを繋ぐ中間の役割が必要。

徳永：生涯学習の視点から地域共同アクションの一環として、学校に本部機能を持つ場所ができて、コーディネーターや市役所の方が常駐するなどの場所が作れるとよいのでは。（唐津青翔高校でも設置が進んでいる。）

校長：地域の方が来られる場所、学際ではオンラインでつながる場所になれば。将来的には地域とつながる仕組み、場所づくりができれば、と考えている。

Ｂさん：コーディネーターは必要。メンターとサポーターは別として、コーヒーメーカーなどがあって、気軽に寄れる場所になるとよい。

田島：コーディネーターはいないので、自分が探究ルームにいないといけないかな、と思ったときに、コーヒーメーカーはいいな、と思ってました。

Ｄさん：協議会とサポーターのすみわけは？別物ですよね？改善点を協議するのが協議会で、サポーターは実働部隊と考えるんですよね？探究ルームはサポーターが使う場所となると思うので。形ができるとプラットフォーム化していって、西高に協力する輪が広がるのでは？サポーターの方々と探究ルームについて話し合う必要があるのでは？
　個々で決めるべきことと、サポーターの方々と話し合って決めるべきことと、すみわけをしてもらったほうが話が進みやすいのでは？

Ｂさん：学校にとって重要な項目として、議題に上がっている。探究ルームについても、大枠の方向性を話ができればよいのでは。最終的には柔軟に現場で。

Ｄさん：細かいところについてはサポーターと詰める形ですね。実際活動する中で、家庭科や書道など、分野によって使える場所が違って、どこに行って良いか戸惑うこともあったので、共通の場所が一つできるのは良い。

田島：探究サポーターの意見もいただきたいが、サポーター同士の横のつながりづくりにも探究ルームが機能すれば、と考える。

Ｄさん：つなぎ役が必要ですね。地域課題に取り組んでいる方のような、つなぎ役がいて、サポーターをコーディネートする人が必要。地域活動をしていく上で、それがないとうまくいかないのでは。ボランティアのつなぎ手をされている方たちに意見をいただいて、地域と学校をつなぐ人がいれば。

Ｅさん：そうしたコーディネーターがいれば、ビジョンが見やすくなるように感じる。

Ｄさん：カテゴリー、業種を分けると、高校生をどこにつなぐかがわかりやすい。生徒たちが選べるとよい。発信のプロばかりなので、探さなくてももうある！という状態にしたい。

田島：この会に集結している。

Ｄさん：この場にもプロが集まっているので、できないことはない。

Ｂさん：生徒が来たくなる場所、

徳永：生徒が安全に活動できる場所が必要。

Ｂさん：気軽に使えて。

Ｄさん：気軽に来ます。

Ｂさん：飲み物は飲み放題。私のＮＰＯでは、畳部屋でごろんとできる雰囲気の中に大人がいる。ＯＡ機器も備えている。子供も大人も来たくなる空間づくり。

Ｄさん：探究する課題で聞きたくなる大人を、生徒たちが選べるように。生徒が聞きたくなるところには、大人が必ずいる。

Ｂさん：日本一のトマトをつくっているような人もリストに載っている。困っていることは視察過多。その困っていることを生徒が手助けするような視点も良い。

Ｄさん：どこに誰がいるのか、生徒が見やすいようにまとめて、生徒が飛びつきやすいようにしたい。高校生の発想で大人を助けてほしい。高校生の視点は大人にとっての学びになる。これがマッチするとよいですよね。

田島：こうさせたいと思うところを超えて生徒が考え、実行できる生徒がいるので、自分たちで考える仕組みを作れれば。ハートに火が付くきっかけづくりができれば。市役所より、課題一覧などをもらって、ヒントにしようかな、と思っている。

Ｂさん：そのほか、大枠について、設備について、ご意見はないでしょうか？

田島：生徒が来たくなるようなアイディアと安全面の確保が課題です。あとは何かしらのしかけ、アイディアがあれば。いろんな情報が目に入ってくるような教室にできれば。

Ｂさん：今のような方向性ですすめていただければ。

田島：ありがとうございます。

Ｂさん：他に取り上げたい議題はありませんか？
　西高生の自己肯定感をあげていくためにも、学校が楽しくて、探究って楽しいって感じてほしい。そうしたところを意識していただけたら嬉しいです。

田島：おすすめしたい、という生徒が少ない。自己肯定感は低い。

Ｂさん：自分たちの代から自己肯定感をあげていくためにも、校則のルールメイキングをしたり、やりがいを感じる仕掛けを作ったりするのはどうだろうか。

Ｄさん：探究のコースは西高のみ。

Ａさん：あこがれるような生徒をＰＲしたりするのも良いのでは。

校長：６月から中学校説明会があるので、学校の魅力やわくわく感をうまく伝えられるように考えています。今日の話は参考になりました。またご意見いただければ。

Ｂさん：協議を終わります。

（７）その他
＜今後の予定について＞
年間４回の会議の予定。（総合的な探究の時間に合わせて水曜日に開催を考えている）一緒に活動していただくことも含めて、お示しする。次回は７月２日。※４回目のみ金曜日開催。